

そよかぜ

佐久市社会教育委員だより 第12号
2025(令和7)年2月 発行

「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！

★社会教育委員、こんなことやってます！★

■居場所づくりからウェルビーイングへ

(原英正委員)

社会教育委員会はこの2年間「居場所づくり」を目標に活動してきました。子育て支援であったり、コミュニティースクールであったりが活動の具体的な場面でした。支援のためのカード作成を試みたりコーディネーターの皆さんと話し合いをしたりしてきました。その結果、少しずつ活動が理解されるようになってきたと思っています。

これから社会教育はどのような方向に進んでいけばいいのでしょうか。居場所づくりをしていく中で、佐久市民の幸福を考える必要があるのではないのでしょうか。社会では、ウェルビーイングという表現で幸福の形を模索しています。

今、私は全佐久PTA連合会の事務局を担当しています。PTAはコミュニティースクールの中核になっていく組織です。地域の子どもたちと共にある学校です。これからのPTA活動は社会教育の観点から運営していくことが大切だと考えています。

子どもたちの安全は登下校の地域の皆様の見守りがあって確保されています。増えていく高齢者は子どもたちから元気をもらう姿があります。地域の文化や伝統は、総合的な学習という形で、地域の皆様が学校の中へ入ってきていただくことでつながれていくのではないのでしょうか。その地域の文化の継承が子どもたちの幸せにつなが

っていくと考えています。子どもたちがやりたいことをやれる環境づくりを学校と一緒にやっていきませんか。地域の皆様の声を社会教育委員会に寄せてください。お待ちしております。

個人の幸福の実現をして、持続可能な社会を創っていきましょう。



【日本PTA川崎大会の長野県のPTAの皆様】

社会教育委員の私

(金子修一委員)

後期高齢者になり公民館は卒業って思っていたら、充て職で社会教育委員に。

会議では教職の方が多く技術屋の私には縁遠い。でも思い出したのは母の実家の高祖父。小学校の校長先生で長屋門の入り口に顕彰碑。優秀な教え子らに地域で奨学金を出し、有名大学の総長になった人が仲間と建立。従って親族に教員が多いから全く無関係ではないか。

P T Aから通学路の雑草が邪魔と言われれば草刈りと除草剤、子どもとの待ち合わせの公会場に時計が欲しいと言われれば設備。小学生の祇園祭りのお手伝い。冬の通学路の除雪、P T Aの公民館での会議の設定、地元佐久大学の学生有志への郷土史資料の提供と敬老会と教室への参加の段取り。年2回の防犯パトロール。コミュニティースクールの会議は難しいが公民館活動も社会教育の一環とセミナーで。

些細な事ばかりだが出来る限り続けよう。



全国社会教育研究大会茨城大会に参加して

(大塚寛美委員)

今回の会場である水戸市民会館は、施設全体に耐火木部材が採用され、4層の吹き抜け空間「やぐら広場」は、縦横の梁が互いに支え合うように組まれ、訪れる人々を迎える魅力的な場所である。

1日目 全体会 12:30~17:00

○歓迎のアトラクション

水戸市立五軒小学校の5年生による長文「偕楽園記」の整然たる暗唱は、郷土への誇りと愛着が感じられる。



「偕楽園記」とは徳川斉昭が偕楽園創設の理念を記したもの。五軒小学校では「偕楽園記」暗唱のほか「子ども梅大使」として偕楽園でのおもてなしボランティアも行っている。

○記念講演

あなたの知らない名字の世界

～名字には隠れた日本文化がある～



名字研究家 高信幸男氏

『あなたの知らない名字（みょうじ）の世界』

～名字には隠れた日本文化がある～

名字研究家の高信幸男氏

柔らかな語り口に引き込まれた。全国を旅しながら名字を収集し、それらの名字の由来やエピソードを次々と披露される様子に、優しい人柄が見える。

10分の休憩時間を挟み、楽しみにしていたシンポジウムの幕が開く

○シンポジウム

～子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか～

子どもたちの成長を支えるために 社会教育は何ができるか

持続可能な地域社会を形成していくためには、地域の人材を育成すること、また地域の人材が活躍できる場を設定することが重要であると考えます。今回は、これからの地域を担う人材として「子ども」に焦点を当てています。

子どもたちの健やかな成長を支えるために、地域の一員としてどのように関わることができるのか、またどのように関わっていかねばいけないのか、切り口の異なる3つの事例を出発点として、多面的に考えていきたいと思います。

茨城県出身の文教大学教授の金藤ふゆ子さん
コーディネーターを務める



- シンポジスト1：茨城NPOセンターコモンズ代表：外国籍の子ども支援や緊急一時支援施設運営活動
シンポジスト2：大洗町教育委員会教育長：「届ける生涯学習」として様々な関係機関との連携を図る
シンポジスト3：NPO法人たまり場ばば代表理事：「家庭訪問型子育て支援」こども食堂や里親など、寄り添う支援

切り口の異なる事例3つをそれぞれの立場で活動されているシンポジストの発表を分析して、1人ひとりのニーズや思いを拾い、それをつなげる役割を短時間で発揮されたコーディネーターのスキルに感服する。

「できることをできる人がゆっくりと継続・・・全速力では息切れしてしまう、地域と学校とが子供を真ん中に置いて持続し、次の人を育てていくことも大切」との言葉が深く心に響く。

2日目 分科会 9:30～11:50

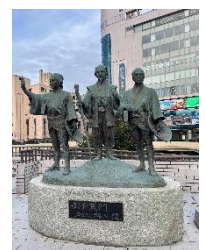
【第1分科会】 地域と学校の連携・協働の道筋を読む

○事例発表1～本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子『いよし百冊物語』を発行～（愛媛県伊予市）
公共図書館の1人の司書が、本と人との相乗効果を信じて13の小・中学校で25回のイベント、全世代の地域団体とコラボして、壮大な目標を現実にしていく。

○事例発表2～地域資源(自然・文化・歴史的価値遺産)を生かした地域活性化～（茨城県常陸大宮市）
10年前から持続可能な地域を目指し合言葉は「地域の問題は地域で解決」地域の小学校も巻き込み総合的学習、山実習、伐採加工、など手がけNPO法人実和の森設立となる。

両団体とも画期的な方法でそれぞれの活動を推進し続けていることに感銘。

最後に短時間であるが、社会教育委員の交流の場があり、京都市、大阪府の委員と直接意見交換ができたことも、今後の自分の活動の大きな収穫となった。



ご老公様ご一行に見送られ
水戸を後にする

■ 社会教育委員の活動を通じて感じたこと

(井出今朝安委員)

社会教育委員の活動をして感じたことについてご報告します。

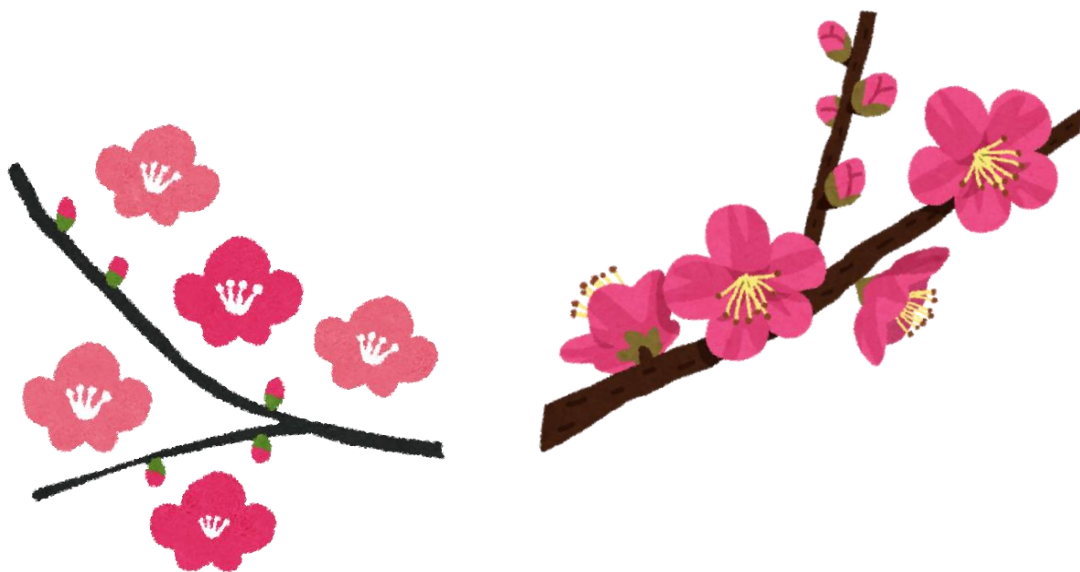
現在、コミュニティースクールコーディネーターの皆さんが、それぞれの学校活動に参加され活動していることに対して、感銘を受け感謝でいっぱいです。

しかし、この、コミュニティースクールという活動を地域の皆さんはご存知でしょうか。また、地域の温度差があるのではないのでしょうか。私は大いにあると感じてなりません。

各地区の活動に対しても温度差があるように感じます。地域全体の皆さんがこの活動を理解されて、支援する仕組み作りが大切ではないのでしょうか。日々の地区行事への参加に取り組む姿勢が各地域によって格差があるように感じます。やはり各地区の総代さん達がこの活動を知り各地区全体で共有していかないと、温度差の格差は無くならないような気がします。

今後、区長会等で地域の活動を促していく必要があるのではないのでしょうか。地域の子どもは地域で守り育てていくことが大切に感じます。

私も今までこの活動で学んだ事を、今後少しでも地域の皆さんに知ってもらえるよう微力ですが頑張っ
て参ります。



■ 編集後記

令和7年や2025年という表記に慣れぬまま、早やひと月が過ぎ2月になりました。社会教育委員全員で行っている「居場所」についての活動も大詰めを迎えようとしています。この「そよかぜ」12号では委員それぞれの活動報告や社会教育委員として思うことなどを書いてみました。国内外の情勢が混迷の度合いを深める中、これからますます地域の中でのつながりが重要視されてくるような気がします。社会教育委員ひとりひとりが、それぞれの活動を通して、よりよい社会を作る一助になっていければ、と思います。

【発行】佐久市社会教育委員

【事務局】〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp